

やさしさと思いやりの連鎖

太田市立太田中学校 二年 松村結衣

今年の夏、家族で海辺に遊びに行きました。岩場はとてもしり組んでいて、足場は悪いですが磯遊びには最高で、私達はカニやヤドリ、小さな魚を見つけるのに夢中でした。ですが、そんな時ふと、近くを通る年配の女性に目が止まりました。足場の悪い岩場を、体いっぱいにくさんの荷物を抱えて、ゆっくり歩く姿を見て、すぐに助けなきゃと思いました。けれど、知らない土地の知らない人。いきなり声をかけても良いものかと一瞬迷った時、妹と目が合いました。二人同時に

「行こう。」

と一言だけ言葉を交わし、一目散に女性のもとへ駆け寄りました。

「お荷物、持ちます！」

女性は目を丸くして驚いていましたが、すぐにホッと、安心した顔になり、

「ありがとう。本当にありがとう。じゃあお

言葉に甘えて。」

と私達に荷物を預けてくれました。そして続けて、

「実はね、こんなたくさんの荷物どうしようかと本当に困っていたの。もうだめだあと思っていた時にあなた達が来てくれて。とっても助けられたわ。親切にしてくれて本当にありがとう。」

と嬉しそうに、何度も感謝の気持ちを伝えてくれました。女性の嬉しそうな顔を見て、私

達も心が温かくなり、なんとも言えぬ幸福感に満たされました。家族のもとに戻ると、父と母が嬉しそうに迎えてくれ、

「偉かったね。喜んでくれてよかったね。」

と頭を撫でて褒めてくれたので、なんだか誇らしく、嬉しい気持ちで妹と笑い合いました。最初は行動を躊躇してしまいましたが、自分の気持ちを信じて動くことができた。そのことが私を成長させてくれたと感じました。

楽しい磯遊びも終わりの時間となり、私達

家族もそれぞれ両手いっぱい荷物運びます。転ばないよう慎重に歩いていると、突然声をかけられました。びっくりして振り返ると、同じく海で遊んでいた知らないお兄さん達でした。

「さっきおばさんを助けてあげてたでしょう。俺たち、すごいなあって思ってたんだ。だから、今度は俺たちが助けようってね。」と優しく微笑みながら、私達の荷物を持ってくれたのです。突然のことで驚きましたが、

本当に嬉しく、温かい気持ちになり、涙が出そうになりました。まさか私達の行動を見ていてくれた人たちがいたなんて。そしてこんなに温かな連鎖をするなんて。私達は驚きと喜びでいっぱいになりました。お兄さんたちにめいいっぱいのお礼を言うと、

「こちらこそ。ありがとう。いい日になった。」と笑顔で戻っていきました。私はこの日、初めてやさしさと思いやりの連鎖を経験しました。自分がポジティブな行動を起こすことで、

周りの人々も影響を受ける。これこそが社会を明るくするために大切なことの一つなのだと思います。こうしてやさしさや思いやりの連鎖が繰り返されることで、皆が、家族が、地域が、社会が明るくなることはもちろん、一人ぼっちで寂しさや悩みを抱える人も減るのではないかと思います。そんな素敵な社会なら、犯罪や非行のない明るい社会になっていくと思うのです。

みんながすこしずつでも、それぞれの形で、やさしさと思いやりを実行していくことで、周りの人たちの生活に輝きをもたらし、やがては、自分からは見えていない人、遠くで暮らす会ったこともない人たちにも、幸せを届けられると信じています。

「みんなでつくる、みんなの社会」
やさしさと思いやりで、明るく、犯罪や非行のない社会をつくりましょう。